

氏名(本籍地)	金子友美(神奈川県)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	博甲第66号		
学位授与年月日	平成25年3月16日		
学位授与の要件	昭和女子大学学位規則第5条第1項該当		
論文題目	都市のオープンスペースの概念規定モデル ーヨーロッパの都市広場とアジアの都市空間の分析ー		
論文審査委員	(主査)	昭和女子大学教授	芦川 智
	(副査)	昭和女子大学教授	竹田 喜美子
		昭和女子大学教授	友田 博通
		昭和女子大学教授	猪又 美栄子
		東京理科大学教授	宇野 求

論文要旨

本研究ではこれまでに行ってきた海外都市広場調査などの事例をもとに、その形態的特徴によって都市のオープンスペースおよび広場的空間の空間概念を明らかにすることを研究目的とする。またオープンスペースの空間概念を視覚化するためにモデル図を提案したい。そして将来的には良質な都市空間を創造するための手法を導き出したいと考えている。

第1章では、海外都市広場調査の結果をまとめたデータベースを構築し、その整理から得られた広場類型について記述した。これらの類型は国や地域、生活習慣、平面形状の違いによって他と異なる特徴をもつものとして得られたものである。結果としてそれらの特徴は各々が独立した個別のものであり、広場機能などに部分的な一致はあるものの形態的な共通事項はデータベースの整理だけでは見いだすことができなかった。

そこで第2章では数量化の手法を用いて都市広場の類型化を試みることにした。J.ゲールの『建物のあいだのアクティビティ』に対応する空間・都市広場のもつ共通の概念を見いだすことが目的である。データベースから277の広場を抽出し、数量化Ⅲ類によって分析を行った。この結果は、海外都市広場調査が都市のセンター機能を担う空間を調査対象としてきたものであり、その結果としてまとめられたデータベースは、類似した性格をもつサンプルの集合体であることを証明する形となった。

第3章では都市広場以外のオープンスペースについての分析が必要と考え、アジアの事例を対象として数量化を行った。数量化の結果からは、主要な2つの軸、空間性能軸と人間集合軸によってサンプルクラスターのレベル分けを行うことができた。次に都市における様々なオープンスペースにこの2つの軸が対応することを検証するため、

都市広場 100 事例とアジア 100 事例を加えた 200 事例のオープンスペースをサンプルとして数量化を行った。人間と空間に関する項目とカテゴリーをそれぞれ分けて数量化を行い、その結果をクロス集計することで、クラスターの組み合わせによる 25 通りのクラスターグループを得ることができた。これらのオープンスペースは 2 つの尺度である空間軸と人間軸に統合することが可能であり、クラスターグループの特徴から 2 つの極および中間的位置づけの存在を得ることができた。

第 3 章で得られた結果を視覚化するために、第 4 章においては概念規定モデルの提案を行った。これは空間軸と人間軸の 2 つの軸をそれぞれ 3 つの段階に区分し、それらの組み合わせから得られる 9 つの類型を図式化したものである。

空間軸では、都市全体を代表する空間-都市の限定された部分空間を尺度としているが、都市自体の面積やオープンスペースの面積による大きさは関係しない。また小さな単位の中心的空間（都市の部分空間）の集合体として都市全体およびその中心空間が存在するという関係である。一方人間軸では不特定多数の人間集合-特定の限定された人間集合を尺度とし、それらは空間の形状と関係することを述べた。

これら軸の尺度をふまえて、概念規定モデルの表現性能を確認するため、第 3 章の数量化に用いた 200 事例の位置づけを行った。その結果、事例分析の結果によるクラスターグループのクロス集計表における分布と、概念規定モデルにおける 9 つのタイプの配置がほぼ一致する結果が得られた。よって 9 つのタイプによる概念規定モデルが事例の分布を単純化して表現していると考えられる。

これらをふまえて本論文の結論を以下 5 項目とした。

- 1.都市のオープンスペースには様々なものがある
- 2.オープンスペースの形態は 2 つの軸に統合される
- 3.オープンスペースの中には広場的空間が含まれる
- 4.広場的空間の大きさは可変的な領域である
- 5.オープンスペース概念規定モデルの有効性

本論文の目標は、都市におけるオープンスペースと広場的空間の関係を明らかにし、オープンスペースおよび広場的空間の空間概念を明らかにすることであった。それは都市空間には様々なオープンスペースが存在し、それらを共通に説明する概念を見いだすことができれば今後のオープンスペース計画に有用であると考えたためである。その意味で、オープンスペースの概念規定モデルを提案し、空間概念を視覚化し表現することができたことが成果である。